

宮城県石巻市・震災復興学習支援 レポート①

私塾ネット 出前寺子屋 「検定合格講座」

◆活動報告その①[2012年5月13日]

5月13日、第19回目のスクーリングのため仙台に入った。5月連休後の日曜日とあって新幹線は空いている。仙台からレンタカーに乗り継いでいざ石巻、なのであるがこの日の仙台市内は異常事態だと言う。仙台国際ハーフマラソンと某国際会議開催の為に交通規制だらけとのこと。さらに拍車をかけたのが天皇皇后両陛下の来訪、市内のいたるところに警察が検問を・・・などとレンタカー職員に脅かされての石巻行きとなった。今回の同行者は、AIMからは私の他に22回目の石巻行きになる谷村和枝、ナカジユクの高島平教室の西中伸教室長。西中さんは先の私塾ネット10周年大会で出前寺子屋の活動を知り、個人の立場で、祝日をつぶして参加してくれたのだ。これに仙台から東北大の村山達也准教授、会場には地元の支援者木伏良明さんが合流していただいた。

午前11時30分、石巻市内に入る。西中さんが初訪問であったので、被災地の門脇小学校へ車を進めた。この日は天気恵まれ、まさに五月晴れの青空が広がり、鯉のぼりまで泳いでいる。荒廃とした被災の地との対比が際立っている。だが、この日はいつもと雰囲気は違っている。廃墟となった門脇小学校の校庭が開放され、何台もの車が駐車している。遠くから祭囃子まで流れてくる。ここから日和山へ車を進める途中渋滞につかまると、なんと神輿を担いだ一群と出くわした。そうなのであった、この日は日和山神社(鹿島御児神社)の夏祭だったのである。被災直後の昨年は祭どころではなかったろうが、一年の時を経て祭を祝う環境が生まれたのであろう。復興への歩みは一步一步前に進んでいるのだ。



津波被災地の門脇地区に掲げられた「がんばろう!石巻」の看板と鯉のぼり。

午後12時40分、余裕をもって集会所に到着した。いつもの通り会場を設営し打合せを始めると、さっそく英検講座のK君がやってきた。1時30分、英検5級講座を開始すると、三々五々漢検の受講生が入室し、いつもの通りご自分の学習を始めた。だれ一人として無駄口をたたくものはいない。ただもくもくとご自分の課題に取り組むのである。この場面が初参加の西中さんにとって新鮮な驚きであった。



漢検家族表彰。親子孫三代同時合格の千葉さんに村山先生から表彰状。

この日の受講生は漢検22名、英検6名計28名と大賑わいであった。だが、中学生3名が部活と修学旅行で欠席となったのが心残りだ。

午後2時30分、全員そろったところでいつものオープニングセレモニーである。スタッフ紹介のあと、3月実施の漢検の家族合格表彰を実施した。親・子・孫三代が同時合格の千葉さんを筆頭に、平塚さん、阿部さん、遠藤さん4家族に、村山先生から表彰

状が渡された。

この日のもう一つの目玉が、「母の日」をテーマとしたフラワーアレンジメントであった。真紅とピンクのカーネーションが手際よく活かされている。皆さん手慣れたものである。25名分を用意したのだが、複数のご家族にご協力いただいて全員が楽しめるプログラムとなった。ちなみに今回の花材は千葉市のA先生の献金で用意させていただいた。誌面を借り報告とお礼を申し上げる。

(ここまで谷村志厚報告)



母の日フラワーアレンジメントを楽しむ。

さて、英検講座はスケジュール通りには進まない状況下、参加者は驚く程に英語の学力をつけている。その筆頭は今回英検準2級を受ける高校3年生のHさんである。2009年度第1回実施の過去問題を解いたところ、75点満

出前寺子屋 in 石巻「検定合格講座」の仕組み

活動期間：第Ⅰ期 2011年8月16日～2012年2月4日

第Ⅱ期 2012年2月19日～6月9日

①スクーリング(漢検・英検学習)

2011年8月16日、9月4日、18日、10月2日、16日、11月5日、20日、12月11日、24日、2012年1月8日、22日、2月4日、19日、3月4日、18日、4月1日、15日、29日、5月13日、27日、6月2日、9日

②会場 仮設開成ささえあい拠点センター集会所

③検定受験

平成24年度第1回漢検2012年6月2日

平成24年度第1回英検2012年6月9日

④受講対象者 仮設住宅、借上げ住宅等に居住する被災市民

⑤受講者特典 教材費・スクーリング受講費・検定料の全額が無料

点中69点の好成績であった。この点数には、採点をしてくれた西中先生も、びっくりであった。Hさんの本当の目標は、今回受験する準2級の英検ではなく、2級の英検合格であり、国立大学合格であると、彼女から聞いている。彼女の自宅は女川にあったため、流失してしまい、現在の仮住まいが勉強環境として良いとは言い難い。その環境の中で、今回の得点をたたき出し、高い目標を設定する姿に私は頭が下がる思いである。指導をする立場の者として、「よし、2級合格まで付き合おう」と決意を新たにされた次第である。



2月から英語学習を始めたばかりだが、日々に英語力が身につけている。この子たちのモチベーションの高さを実感する。

準2級の受験者ばかりではない、上記写真に写っている10月に5級を受検する新中学1年生は、Hさんと同様に自宅は流失若しくは全壊で、現在仮設住宅住まいである。狭い仮設住宅で学習をする環境は、自塾のある松戸の子ども達に比べると劣悪である。しかし、学習意欲とモチベーションは比較にならない程高い。宿題を全てキチン済ませて授業にのぞみ、60分の授業時間には集中力が途切れることがない。この子どもたちにも、私は脱帽である。

強いて課題を探すならば、4級英検講座であろう。中学2年、3年生で、部活動が軌道に乗り、日曜日ごとに試合等が入り参加が継続しなくなったことである。月2回しかないスクーリングでの連続欠席への対処が、指導者には求められていると実感する。子どもたちを鏡にして、指導にもベストを尽くしたいと思う。

(この項谷村和枝報告)

23年度第2・3回漢字検定合格者40名の内訳
2級-5名、準2級-12名、3級-12名、4級-4名、5級-3名、
6級-2名、7級-2名 (小中学生15名、一般25名)

ご支援ありがとうございます

当活動は支援参加者個人の負担と、ご援助をいただいた皆さんの浄財で運営しております。平成23年10月23日以降平成24年5月2日現在で、17の塾、学校及び団体さんから、総額343,458円の献金をいただきました。ありがとうございます。引き続き応援をお願いします。支援金の使途は、検定料、教材費の直接費用と交通費、通信費、スタッフ昼食費の間接費用にかぎり計上させていただきます。

2012年4月から、日本基督教団の被災支援ネットワークである「東北ヘルプ」のご支援をいただくことになりました。尚「東北ヘルプ」の活動については以下のHPをご覧ください。touhokuhelp.com

主催：全日本私塾教育ネットワーク(略称・私塾ネット)